

四門出遊(三)

し もん しゅつ ゆう

そして、シッダールタ王子は今度は南の門から城を出ていきました。

父のスッヂーダナ王は家来に命じて王子のゆく道に異常が起ららないよう、しっかりと手をまわしておきました。しかし「王子は仏陀になる人だったのです。いかなる準備も無駄でした。

しまいく行くと王子一行の前に、蒼白な顔で苦しみながら身をよじりせる男が現れました。男は、瀕死の田を血走らせて自分の排泄物の上に倒れていました。

またしても、王子は驚きつつたえ、御者に尋ねました。

「あの者はどうしたといふのだ?」御者は答えます。

「病人(びにん)さいます。人として生を享けた者は、だれもがいつかあるような姿となるのです。」

お盆飾り

お盆飾り

今年も夏がきました。夏といえばお盆。ところで真宗のお盆はどのようななお飾りをするのでしょうか。



ます。

では、浄土真宗はどうかというと、中央の写真によくな燈籠(とうろう)をお飾りします。これを「切子燈籠(きりことうろう)」といいます。

ます。これで八角形になっており、下部に切紙の尾を附けた俗にいう盆燈籠であります。火袋は赤と紺、尾は白、赤、紺の三色を段々にしたもので、堅

2つで1対です、両脇につづつお飾りします。

もちろん、お盆をお迎えするにあたり、お内仏(仮壇)のお掃除やお仏具のお磨きを最初にします。

そして打敷やお花などのお飾りも忘れずにしましょう。

これを聞き、王子の心には沈鬱さが広がり耐え難いものとなりました。城に戻った王子は「老(い)」に続いて「病」を知つて苦しんだのです。

気持ちを切り替えて、今度は王子行は西の門)を出ていきました。

すると前方に多くの人の集まりがありました。よく見れば、その集まりの中に死んだばかりの男が横たわっていました。男は青ざめて乾き、石のように冷たくなっていました。

「あの者はどうしたとか? 病のか? 老いたのであるか?」

御者は答えます。

「死人(しにん)さいます。生きとし生けるものはいつかは、あのよくな姿となるのです。」

人々のあつまりは絶望と悲嘆(くわい)でした。葬列(くわい)であったのです。再び王子は暗く沈んだ気持ちで城へ帰る(かへる)となつたのでした。

人は病み、老い、死す。平凡な真理。しかし、それはその反対の健やかであり、若く、生きていることの驕りを



↑釈迦の「病」と「死」との出会い
(「釈迦八相図」/鎌倉時代/MOA美術館蔵)



合掌
(じょうづまん)

照らします。この出来事は、3つの驕りを表現していると考えられています。驕りにより、成すべきことを怠つてしまつ」とあるところが示唆が含まれているかもしません。

さて、表題は「四門出遊」。つまり、まだ一つ、北の門に出会いが待っています。北の門をでたシッダールタ王子が出会ったのは沙門でした。沙門とは当時印度の地で中心的宗教であったバラモン教以外の宗教生活(こうりょう)にはじめた修行僧です。その者の清々しい姿に惹かれた王子は尋ねたのでした。

(ひらく)

「あの者はどうしたとか? 病のか? 老いたのであるか?」

御者は答えます。

「死人(しにん)さいます。生きとし生けるものはいつかは、あのよくな姿となるのです。」

人々のあつまりは絶望と悲嘆(くわい)でした。葬列(くわい)であったのです。再び王子は暗く沈んだ気持ちで城へ帰る(かへる)となつたのでした。

人は病み、老い、死す。平凡な真理。しかし、それはその反対の健やかであり、若く、生きていることの驕りを

夏本番となりまして、頭もボーッとなり、集中できないです。インドの南部には季節は3つしかないそうで、ホット・ホット・ホットテスト。

暑い、かなり暑い、暑すぎる。その中でカレー食べるのですが、まだまだ自分など甘いなあと思います。でも不思議と暑い夏(ひ)で、カレーが恋しくなったりしませんか?

とひらく、「一面」に書いた「切子燈籠」。お寺の本堂には巨大な燈籠を約1か月飾っています。昨年新調しました。ぜひ、じっくりとご覧になつてくださいね。



境界堀・屋外通路

正門入って右手の隣地境のブロック堀が下写真のように歪み、倒れかかっていました。(幸い鉄芯が入っていたため倒壊しませんでした。)こちらも基礎工事から新しくいたしました。



↑ 今後、手前側に生け垣も植樹予定です。



左写真が女性用で男性と対照的に明るいイメージのインテリアです。
洗面所はお化粧などもできるよう広くしました。

の引込線を地中に埋設する工事を行いました。

通路については本堂及び山門、玄関周辺は鉄平石を敷き詰めて和風に、墓地内は白御影石にして、雰囲気やコスト面から使い分けをしています。

墓地内は白御影石にして、雰囲気やコスト面から使い分けをしています。通路は車イスでのお参りが可能になることを目指して、今後も順次進めています。工事中ご不便をおかけいたします。何卒、ご理解ください

ますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



↑ 鉄平石の通路



Topics 善仁寺からのお知らせ

まだ中間報告ですが、一部工事が完了した箇所をご紹介します。お参り、ご法要などの際には、ご利用ください。

昨年より境内の施設、通路など皆様により安全に快適にお参りいただけますよう工事を進めております。

奥に善仁寺寺報のバックナンバーコーナーを設置しています。ご自由にお取り

山門手前、向かって右側に休憩スペースを設置いたしました。(上写真) 従来はお盆・春秋彼岸のみ屋外にテントの仮設休憩所としておりました。新しい休憩所は常設とします。(客席16席／14.8畳)

奥に善仁寺寺報のバックナンバーコーナーを設置しています。ご自由にお取り

以前より皆様から「トイレを男女別にしてほしい」とのお声がありました。ということでお全体を少し広げてなんとか男女別のトイレにすることができました。右の写真は男子トイレで壁面や床は黒を基調としたシックなデザインにしていただきました。



館内男女トイレ

また、施設内は禁煙とさせていただきます。

※入口開閉トビラが非常に重たくなっています。開閉の際は手などはさみこみませんよう、ご注意ください。

お墓参りのお待ち合わせやお参り後の休憩にご利用ください。

生前に仏弟子の名告りをして、「法名をお受けすること」を帰敬式といいます。

来年度(平成二十七年)は第四回目の善仁寺での帰敬式です。

ご希望の方は左記期間内に当寺までお申込み下さい。

帰敬式受式希望者募集のお知らせ

申込期間

平成二十六年九月一日～十一月末日

帰敬式日程(予定)

平成二七年一月～三月(予定)

受式費用

金五万円／お一人

(記念品・食事代含む)

※ご家族・ご親類など法要付き添いはできます。

※お食事のみの追加は五千円／お一人となります。

※善仁寺では帰敬式をお受けとなる方は善仁寺同朋会へのご参加をお願いしております。

※代理人受式はできません。